

2015年度版

健康のすゝめ

目次

1. 統計調査

P2

組合員・家族構成

- 組合員・家族の年代別人数

死亡統計

- 年代別・死因別・がん部位別死亡者の状況
悪性新生物による死亡が6割も
がん死亡者(組合員)の約半数が健診未受診

疾病統計

- 総医療費・一件あたり医療費
- 疾病別・悪性新生物・生活習慣病内訳
40歳代から乳がんが急増しています。
高血圧の発症件数が多くなっています。
- インフルエンザ補助事業

2. 健康診断

P7

健康診断

- 健診受診回数と医療費の関係について
- 年代別有所見率
- 健康診断支部別受診率
乳がんの受診者数が増加しました。
- 特定健診・特定保健指導実施状況
特定健診受診率 43.0%、特定保健指導実施率 4.4%

3. 職業病対策

P12

- 再読影状況、年度別職業病認定一覧 財政効果
1枚のレントゲンフィルムが職業性呼吸器疾患を語る
労災認定17人、財政効果7,300万円
- 熱中症

4. 健康づくり事業

P14

- 健康講習会開催状況報告
ウォーキングや体操コースが大人気となっています。
親子体操など新たな企画が登場しています。

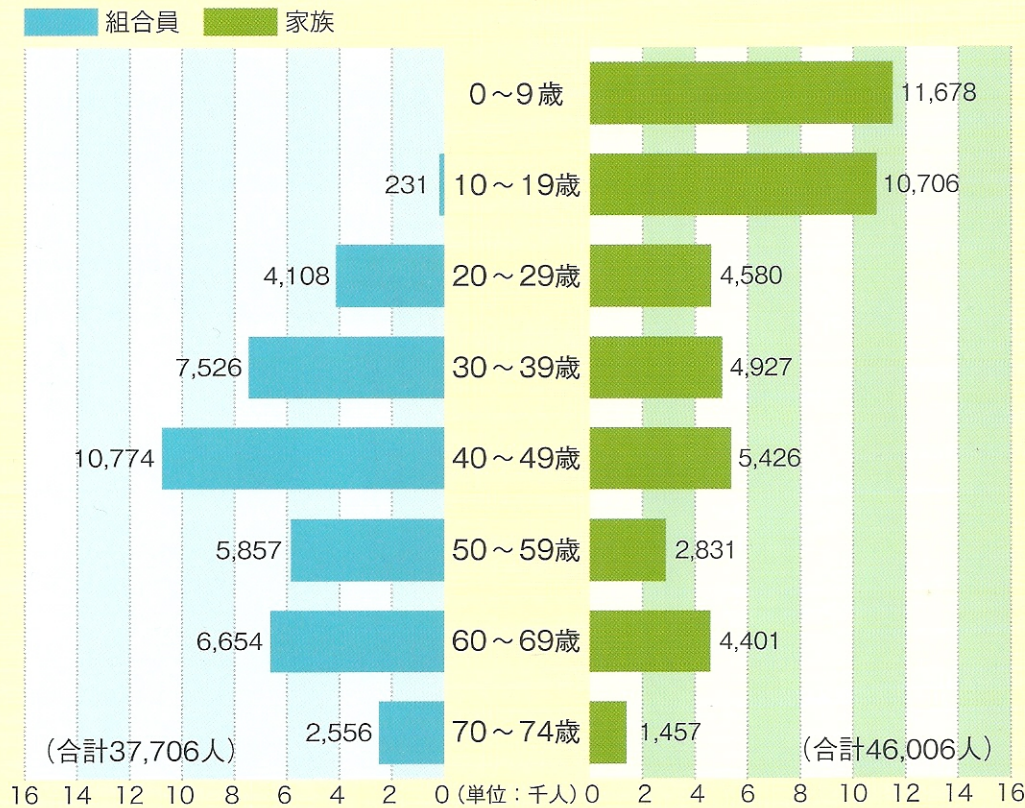
保健調査 活動報告



1. 2015年度統計より

組合員・家族構成 (2016年3月末現在)

組合員と家族の年代別人数



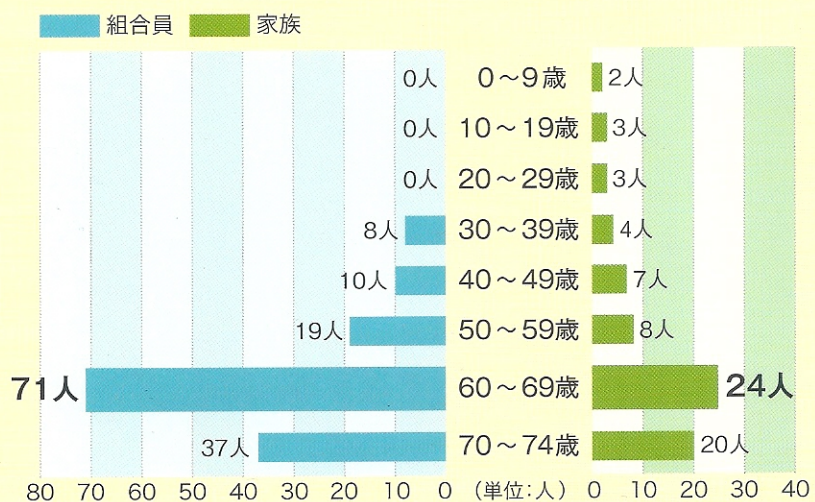
組合員では40歳代が最も多く、次いで30歳代、60歳代の順となっています。家族については、20歳以下の子供の加入が最も多く、次いで40歳代となっています。

死亡統計 (2015年4月～2016年3月)

※後期高齢者医療制度のため、この統計には75歳以上の死亡は含まれない。

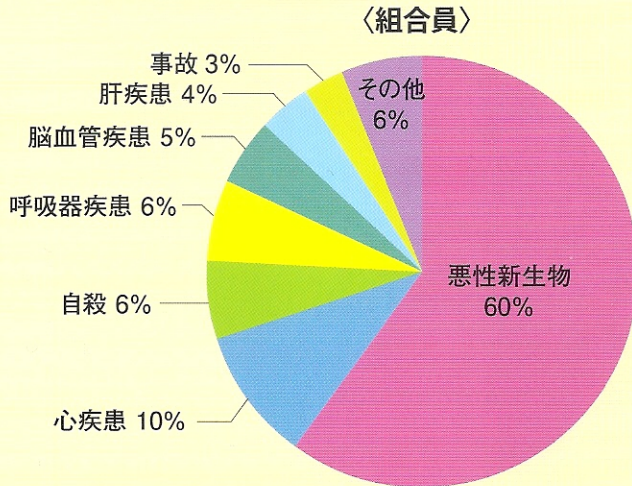
年代別死亡者数

60歳代組合員の死亡が最も多くなっています。70歳以上で人数が減っているのは、75歳以上で後期高齢者に移行しているためです。



死亡統計

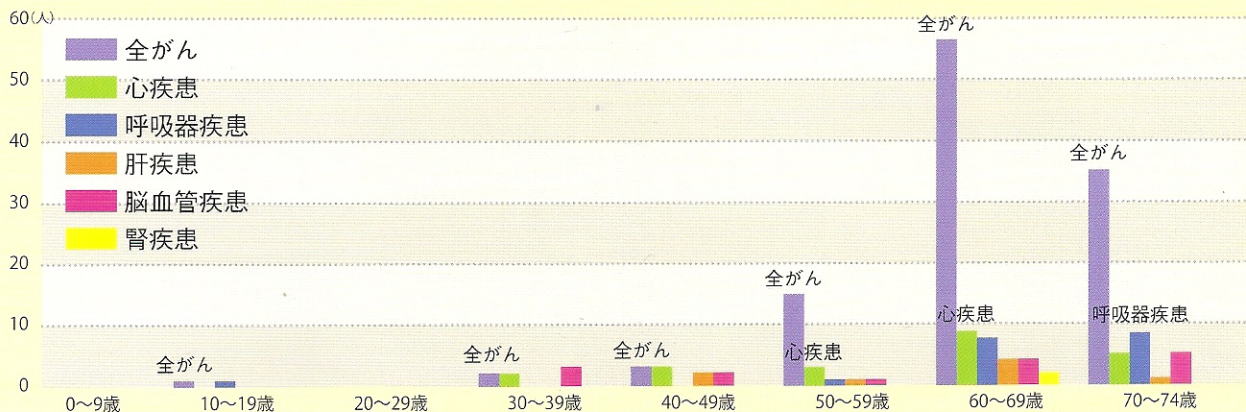
疾病別死亡者数・割合



疾病名	組合員	構成率	家族	構成率
悪性新生物	87人	60%	25人	36%
心疾患	15人	10%	7人	10%
自殺	9人	6%	3人	4%
呼吸器疾患	8人	6%	10人	14%
脳血管疾患	7人	5%	8人	11%
肝疾患	6人	4%	2人	3%
事故	5人	3%	2人	3%
腎疾患	0人	0%	2人	3%
その他	8人	6%	12人	17%
総計	139人	100%	91人	100%

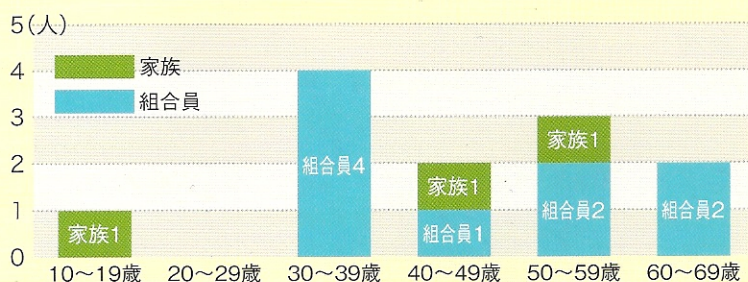
組合員では、悪性新生物が死因の6割近くを占め非常に多くなっています。

年代別死亡原因



がんが最も多いのは60歳代ですが、若い世代もがんが原因で亡くなっています。60歳代では、がんに次いで心疾患が多く、70歳代では呼吸器疾患が多くなっています。

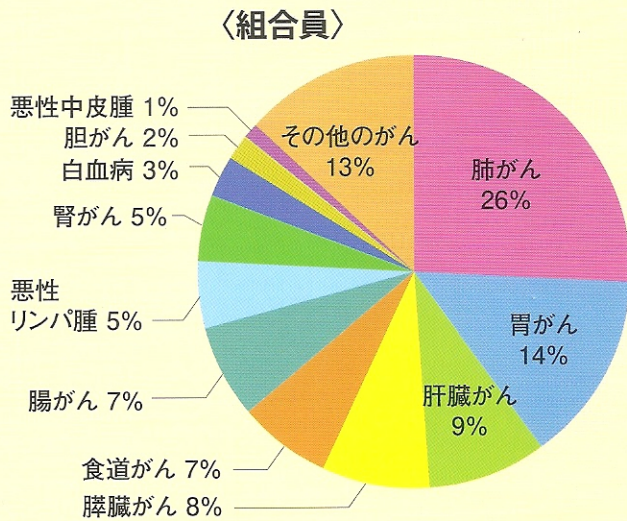
年代別自殺者数



自殺は組合員9人（昨年11人）、家族3人（昨年3人）と減少しました。30歳代～60歳代の自殺が多く、特に30歳代の組合員本人の自殺が多くなっています。

死亡統計

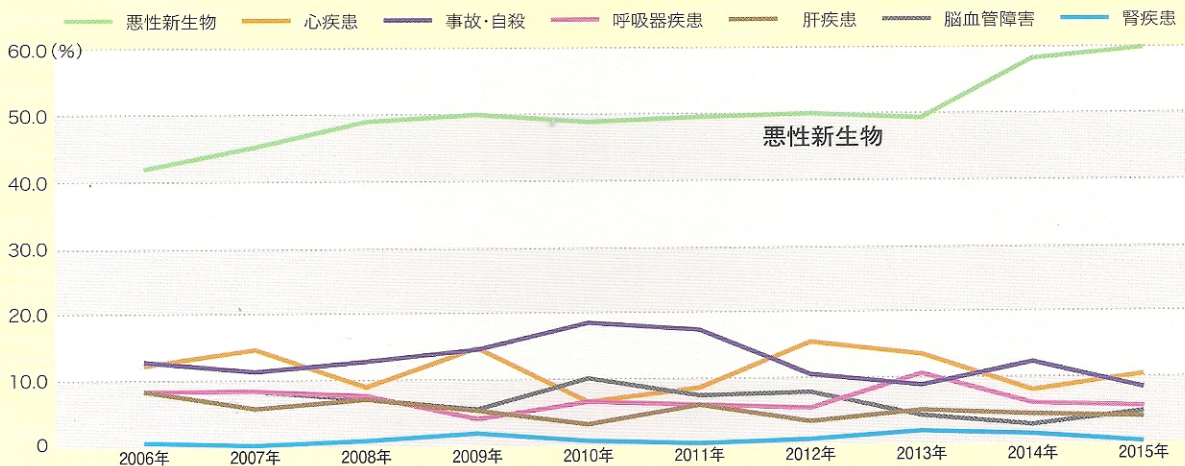
悪性新生物 部位別死亡者数・割合



疾病名	組合員	構成率	家族	構成率
肺がん	23人	26%	2人	8%
胃がん	12人	14%	3人	12%
肝臓がん	8人	9%	1人	4%
膵臓がん	7人	8%	1人	4%
食道がん	6人	7%	1人	4%
腸がん	6人	7%	6人	24%
悪性リンパ腫	4人	5%	0人	0%
腎がん	4人	5%	0人	0%
白血病	3人	3%	2人	8%
胆がん	2人	2%	1人	0%
悪性中皮腫	1人	1%	0人	0%
その他のがん	11人	13%	8人	32%
総計	87人	100%	25人	100%

組合員では、肺がんが最も多く、がん死亡者の4人に1人となっています。

疾病別死亡者割合の推移



悪性新生物の割合が年々増加しており、6割となっています。

悪性新生物死亡者の過去3年間の健診実施の状況

組合員

	死亡者数	未受診者	
		人数	%
総計	87	44	51%

家族

	死亡者数	未受診者	
		人数	%
総計	25	18	72%

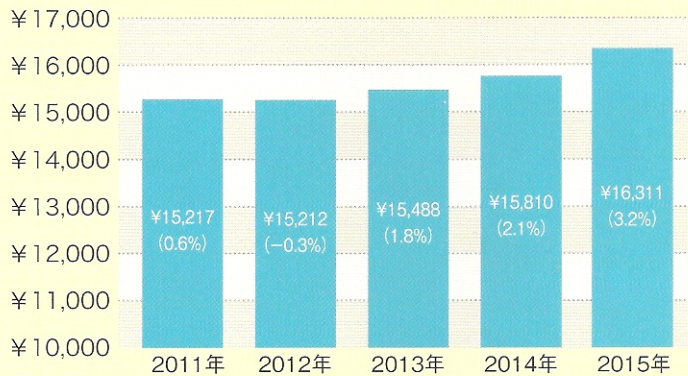
悪性新生物で死亡された方のうち、組合員は51%、家族は72%が過去3年間健診未受診でした。

疾病統計

医療費分析(2015年4月～2016年3月) 診療報酬内訳より

総医療費 2015年度総医療費 17,750,940,372円

1件当たり医療費の推移

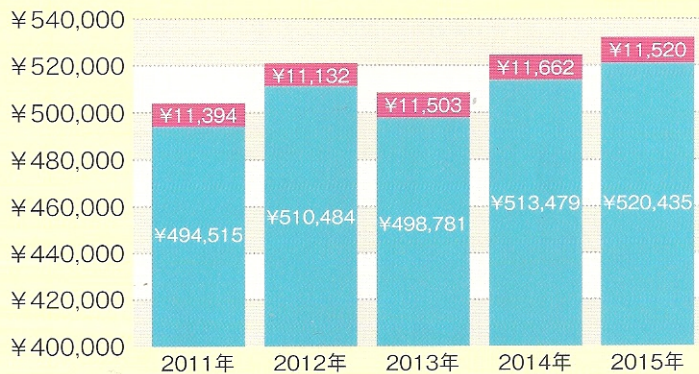


■ 1件当たり医療費
()は前年度比

* 1件当たり医療費=総医療費÷レセプト件数

1件あたり医療費は増加傾向にあります。

1件当たり医療費の推移 (入院・外来)

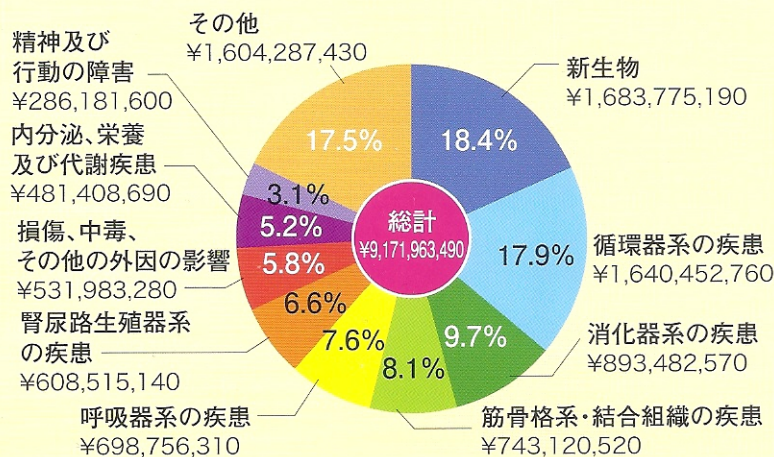


■ 外来
■ 入院

* 1件当たり医療費=総医療費÷レセプト件数

入院は増加、外来は減少しています。

疾病別医療費と割合

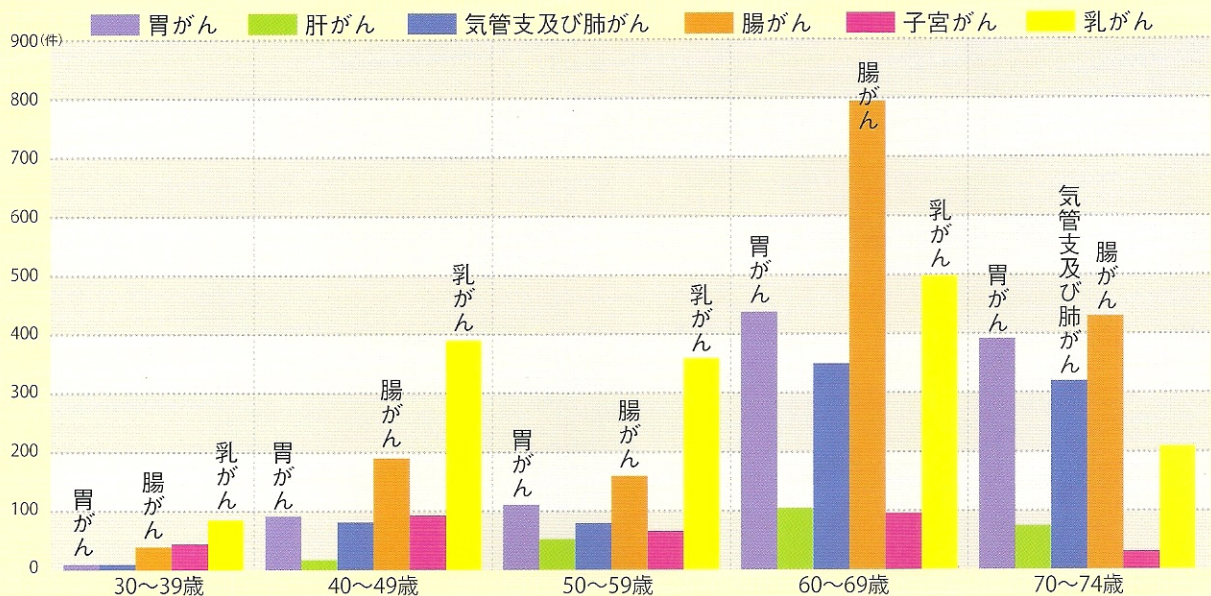


疾病別の医療費では新生物が最も多く、次いで循環器系、消化器系疾患となっています。

※新生物には悪性・良性を含みます。

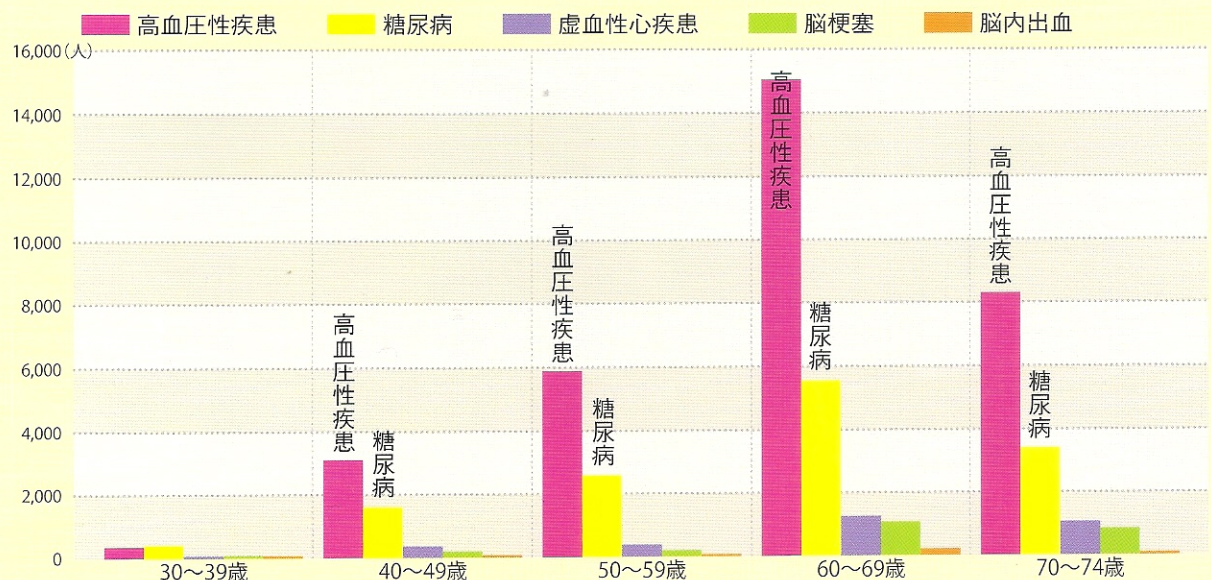
1. 2015年度統計より

悪性新生物 部位別・年代別発症件数



30~40歳代で乳がんが増加しています。また、40歳代より腸がんが増加し、60歳代は、腸がん、胃がんが多くなっています。

生活習慣病 疾病別・年代別件数



高血圧の発症件数がどの年代も多く、40歳代から高血圧とともに糖尿病も急増しています。60歳代で虚血性心疾患、脳梗塞が増加しています。

インフルエンザ予防接種補助金支給事業を行っています

インフルエンザ予防接種の費用が年度内に一人1回に限り2,000円を限度に助成されます。今年は8,289人の申請があり、助成額の合計は16,367,660円で被保険者全体の約10%の接種率となりました。

2. 健康診断

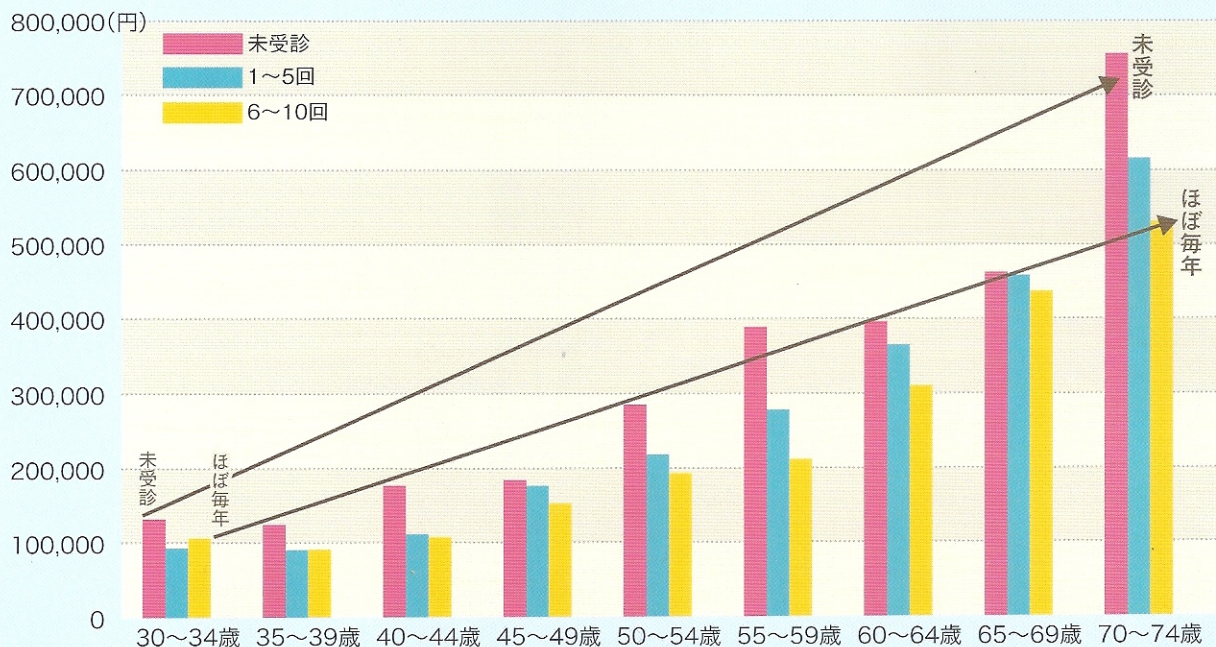
健診受診回数と医療費の関係について

2006年～2015年（10年間）の健診受診回数（0～10回）と2015年度の年間一件当たり医療費（2015年4月～2016年3月）を年代別・健診受診回数別で比較しました。対象人数：24,287人（内訳：未受診6,410人、1～5回6,824人、6～10回11,053人）

年代別・健診受診回数別 1件当たり医療費

（単位：円）

平均	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-75歳
未受診	127,809	126,040	131,256	167,623	251,626	325,063	342,725	431,626	754,109
1～5回	61,430	102,637	123,509	139,749	222,007	232,155	359,315	417,786	627,226
6～10回	62,843	85,364	105,019	148,302	188,534	236,364	310,444	367,670	483,939



2006年から2015年の10年間建設国保に加入されていた方の健診回数と2015年度の1年間の1件当たり医療費を比較しました

健診受診回数と医療費の関係と比較すると、過去10年間健診受診が全くない未受診者と健診回数6回～10回のほぼ毎年健診を受けている人では医療費に差が出ています。どの年代も健診回数が少ない人は健診を受けている人より高額になり、年齢を重ねるとその差は顕著になっています。70～74歳ではほぼ毎年受けている人が一件当たり483,939円に対し、未受診者は754,109円となりその差は270,170円となっています。健診受診の重要性が分かります。



2015年度 各組合支部別特定健診・特定保健指導実施状況 (40歳以上75歳未満)

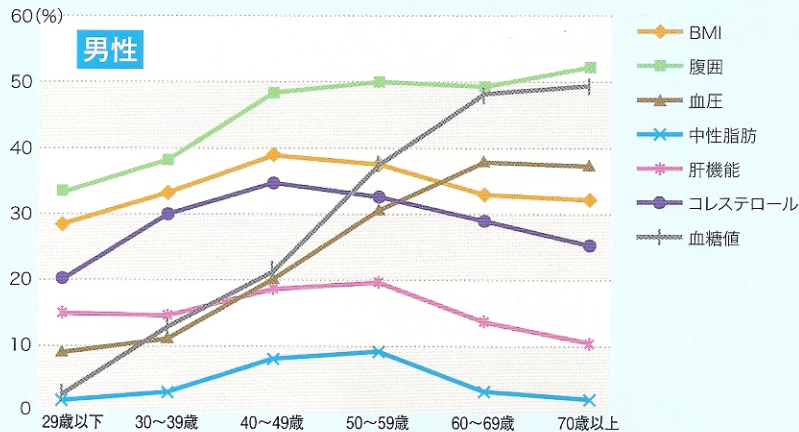
支部名	合計受診対象者数	合計受診者数	合計受診率	積極的支援対象者計	動機付支援対象者計	保健指導対象者計	初回面接終了者数	初回実施率
川崎北部建職	1,934	684	35.4%	78	63	141	3	2.1%
川崎中部建設	1,045	361	34.5%	45	28	73	3	4.1%
川崎建築	1,463	517	35.3%	71	62	133	4	3.0%
建設一般	972	401	41.3%	60	31	91		0%
小計	5,414	1,963	36.3%	254	184	438	10	2.3%
横浜建築職	1,383	656	47.4%	72	70	142	10	7.0%
横浜石工連	205	96	46.8%	17	4	21		0%
横浜電工	34	6	17.6%	0	4	4		0%
建設横浜鶴見	1,302	573	44.0%	68	45	113	36	31.9%
建設横浜川崎	403	170	42.2%	27	20	47	1	2.1%
金沢土建	449	224	49.9%	27	19	46	2	4.3%
建設横浜港北	1,024	368	35.9%	31	24	55	8	14.5%
建設横浜神奈川	1,171	432	36.9%	61	38	99	11	11.1%
建設横浜保土ヶ谷	697	321	46.1%	50	25	75	3	4.0%
建設横浜西	348	142	40.8%	15	7	22	3	13.6%
建設横浜中	464	210	45.3%	20	17	37	1	2.7%
建設横浜南	517	171	33.1%	25	13	38	3	7.9%
建設横浜磯子	634	226	35.6%	35	19	54	2	3.7%
建設横浜緑	840	321	38.2%	34	23	57	2	3.5%
建設横浜旭瀬谷	828	330	39.9%	37	24	61	2	3.3%
建設横浜港南	856	297	34.7%	33	31	64		0%
小計	11,155	4,543	40.7%	552	383	935	84	9.0%
逗葉建設	338	138	40.8%	11	12	23		0%
横須賀北部	266	168	63.2%	14	14	28		0%
浦賀建設	273	166	60.8%	9	4	13		0%
久里浜建設	166	114	68.7%	10	6	16	11	68.8%
三浦建設	252	134	53.2%	2	2	4		0%
小計	1,295	720	55.6%	46	38	84	11	13.1%
湘南建設	591	210	35.5%	11	10	21		0%
湘央建設	831	303	36.5%	46	24	70	5	7.1%
大磯建設	49	23	46.9%	3	1	4		0%
小計	1,471	536	36.4%	60	35	95	5	5.3%
厚木建築職	272	157	57.7%	14	16	30	3	10.0%
高相建設	374	135	36.1%	23	13	36		0%
相模中央	1,133	497	43.9%	66	28	94		0%
相模大野	691	399	57.7%	44	39	83		0%
相模原総建	462	242	52.4%	32	19	51		0%
津久井建業	363	192	52.9%	16	12	28	4	14.3%
愛川建築	56	20	35.7%	0	3	3	2	66.7%
綾瀬建築総合	155	75	48.4%	4	9	13		0%
大和建設総合	249	129	51.8%	12	11	23		0%
海老名建職	98	54	55.1%	5	4	9	2	22.2%
小計	3,853	1,900	49.3%	216	154	370	11	3.0%
土建川崎中央	1,463	590	40.3%	89	47	136	5	3.7%
土建相模原	1,978	1,048	53.0%	121	75	196	4	2.0%
土建湘南	983	439	44.7%	48	43	91	7	7.7%
土建横須賀 三浦	3,390	1,439	42.4%	184	100	284	7	2.5%
土建西相	1,274	598	46.9%	44	26	70	5	7.1%
土建横浜	1,111	382	34.4%	51	27	78		0%
土建大和	889	424	47.7%	53	30	83	4	4.8%
土建南横浜	883	368	41.7%	49	32	81	1	1.2%
土建横浜西	1,229	579	47.1%	88	58	146	4	2.7%
土建厚木	975	429	44.0%	48	40	88	3	3.4%
土建横浜緑	1,138	513	45.1%	78	40	118	1	0.8%
土建平塚	976	453	46.4%	57	36	93	2	2.2%
土建座間海老名	783	454	58.0%	58	33	91		0%
土建川崎	1,144	515	45.0%	62	33	95	2	2.1%
土建横浜中央	938	349	37.2%	46	29	75		0%
土建横浜戸塚	1,068	431	40.4%	50	46	96		0%
土建川崎多摩	544	264	48.5%	32	30	62	5	8.1%
土建茅ヶ崎寒川	786	342	43.5%	14	8	22		0%
土建横浜鶴見	791	290	36.7%	44	25	69	1	1.4%
土建川崎中原	330	170	51.5%	11	9	20		0%
土建鎌倉豆子葉山	434	180	41.5%	22	21	43	1	2.3%
小計	23,107	10,257	44.4%	1,249	788	2,037	52	2.6%
合計/平均	46,295	19,919	43.0%	2,377	1,582	3,959	173	4.4%

※2016年4月まで請求着まで把握している2015年4月から2016年3月の特定健診対象年齢受診者数で算出。特定保健指導対象者数は5月13日時点把握分
 ※初回面接終了者数は医療機関からの報告等を基に算出しているため、予約キャンセルで前月より減数になっている組合もあります。2016年5月13日時点
 ※健診受診者請求データが到着する前に保健指導を開始している対象者がいるため、対象者数と実施者数が一致しない場合があります。

2. 健康診断

年代別健康診断有所見割合 2015年度健診結果集計

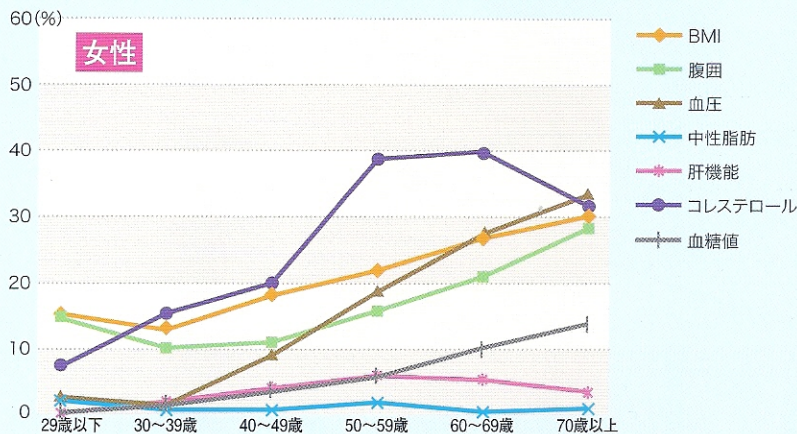
年代別健診有所見割合



男性の特徴

腹囲が全年代とも最も多くなっています。BMI、脂質系は40歳代をピークに下がっています。逆に血圧、血糖値が年齢とともに増加しています。

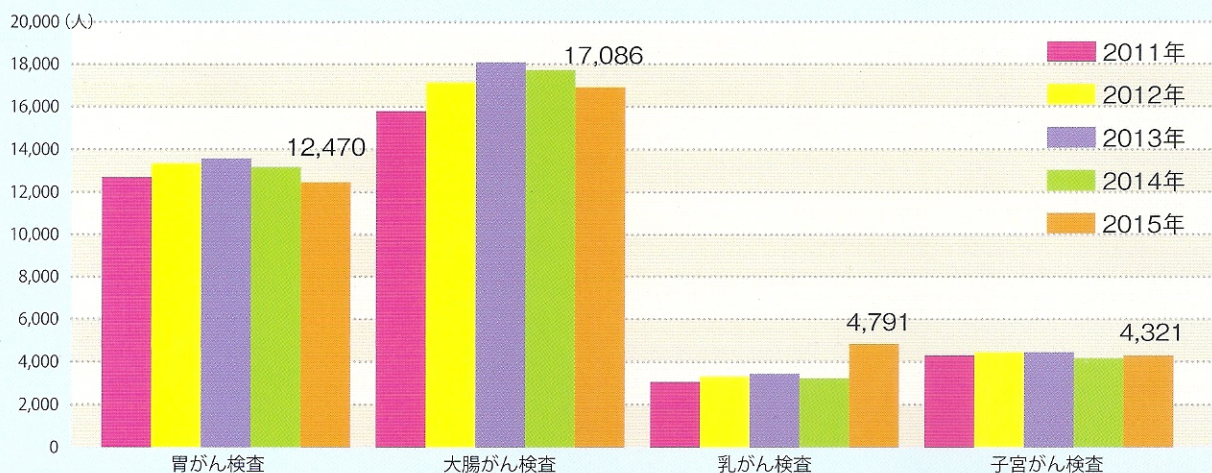
年代別健診有所見割合



女性の特徴

コレステロールが40歳代で急増しています。血圧、血糖、BMI、腹囲は徐々に増加しています。

健診項目別・年度別受診者数の推移



参加状況 173人 / 3,959人 = 4.4%

2. 健康診断

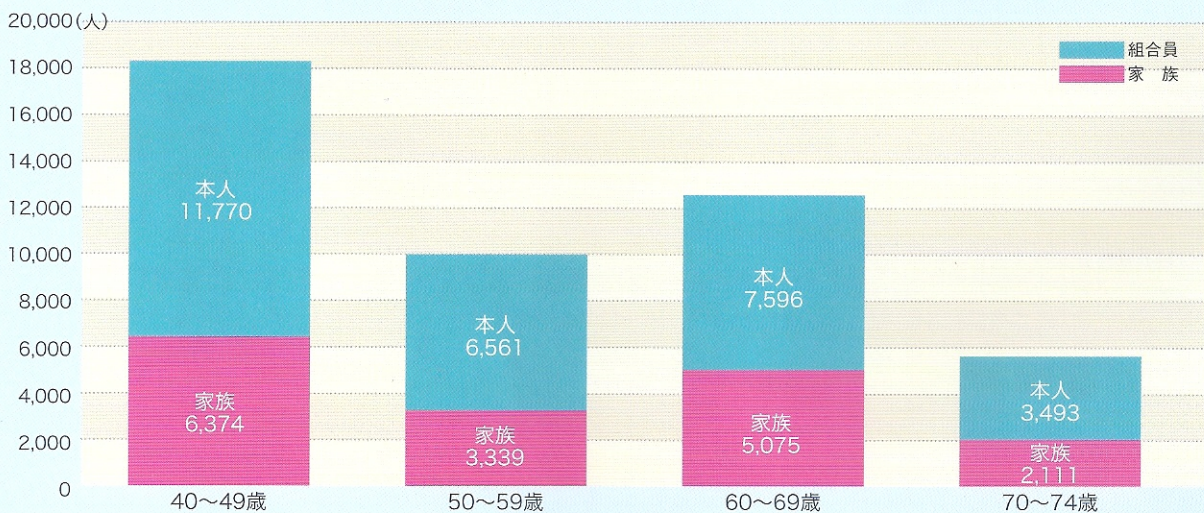
特定健診・保健指導実施状況

2008年度から5年を1期としてはじまった特定健診保健指導は、第2期の3年目の年となりました。

1. 特定健診

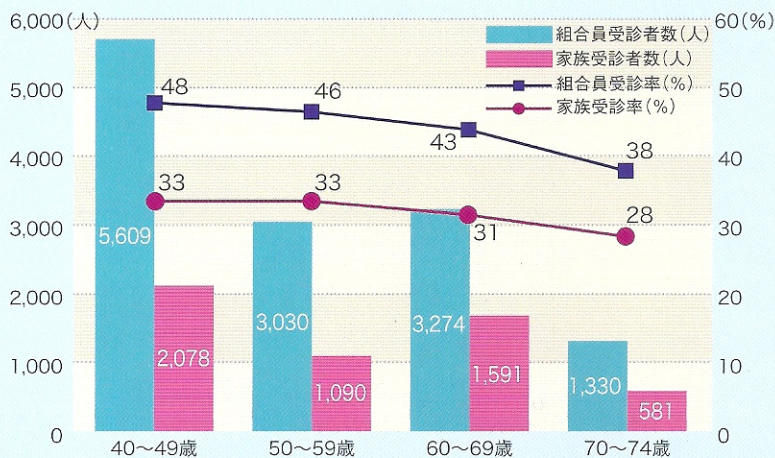
特定健診対象者の状況

特定健診対象者数は46,319人です。特定健診対象者のうち年代別では加入状況と同様、40歳代が最も多く、次いで60歳代が多くなっています。



特定健診受診者の状況

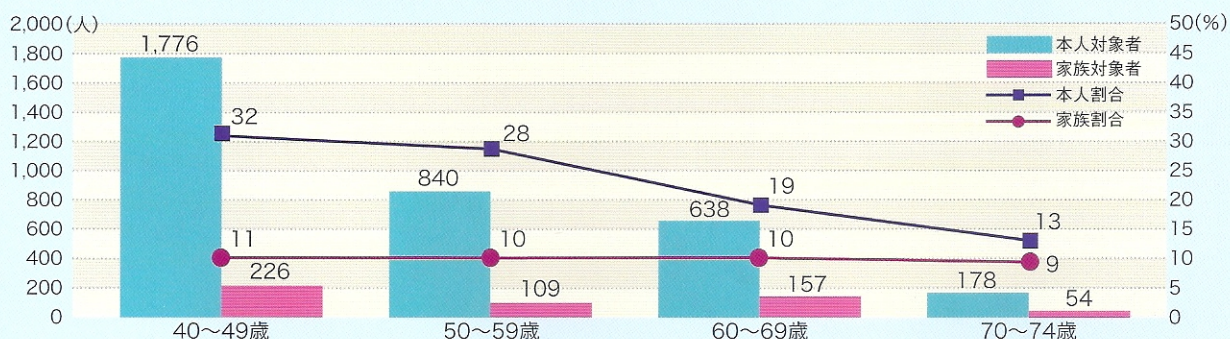
国が示す特定健康診断受診率目標は70%ですが、健診受診者の状況を年代別にみると下図のとおりです。受診率は40歳代が最も高いのですが、年齢とともに低下しています。



2. 特定保健指導

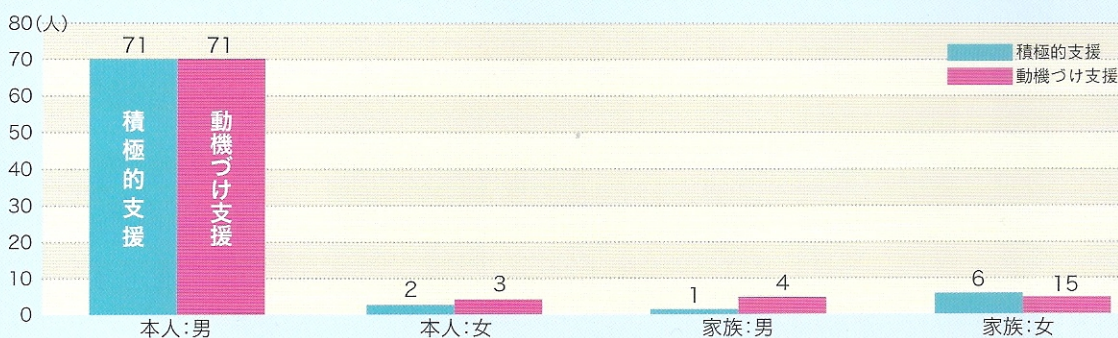
特定保健指導年代別対象者数とその割合

2015年度特定健診受診者で特定保健指導の対象者となった方は3,978人でした。年代別の対象者数をみると、組合員本人、家族ともに40歳代が最も多くなっています



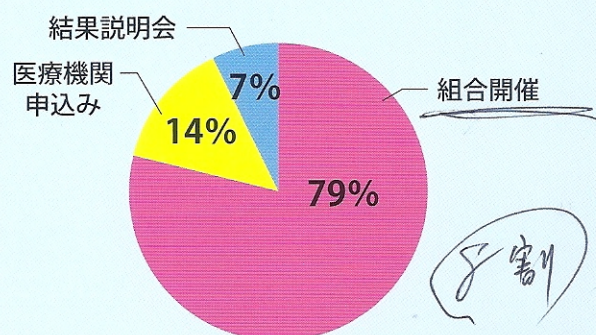
初回面談参加者の状況 H28年5月20日把握時点

今年度の特定保健指導初回面談参加者は173人(前年297人)でした。全体として男性の参加者が多くなっています。女性はやや動機付け支援が多くなっていますが、男性は積極的支援、動機づけ支援と偏りなくほぼ同数となっています。



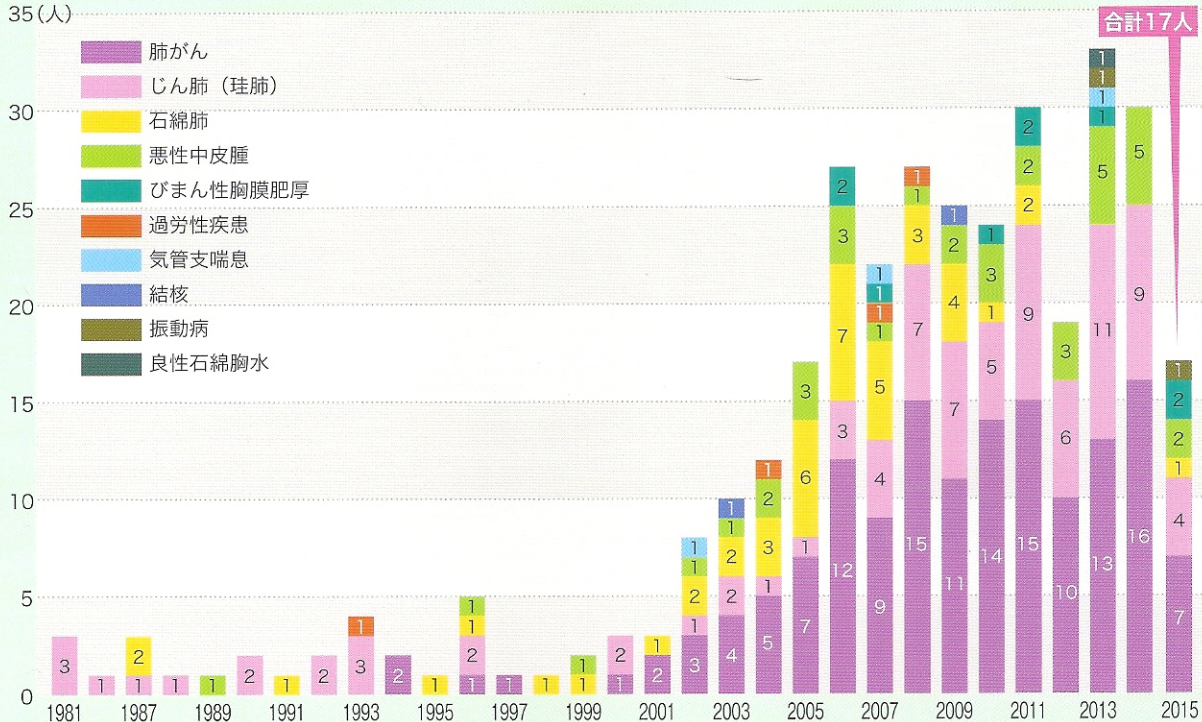
初回面談参加者の参加形態

保健指導の参加形態は組合事務所での開催、利用者が医療機関へ直接申し込む、結果説明会の開催に併せて参加する、の主に3つの方法で実施しました。参加形態の中で最も多いのは組合主催で、8割を占めています。保健指導を自ら医療機関に申し込む方は少なく、やはり、組合実施が参加しやすいようです。組合からの呼びかけの重要性が分かります。



主催	人数	割合
組合開催	136	79%
医療機関申込み	24	14%
結果説明会	13	7%
総計	173	100%

労災認定者の年次推移



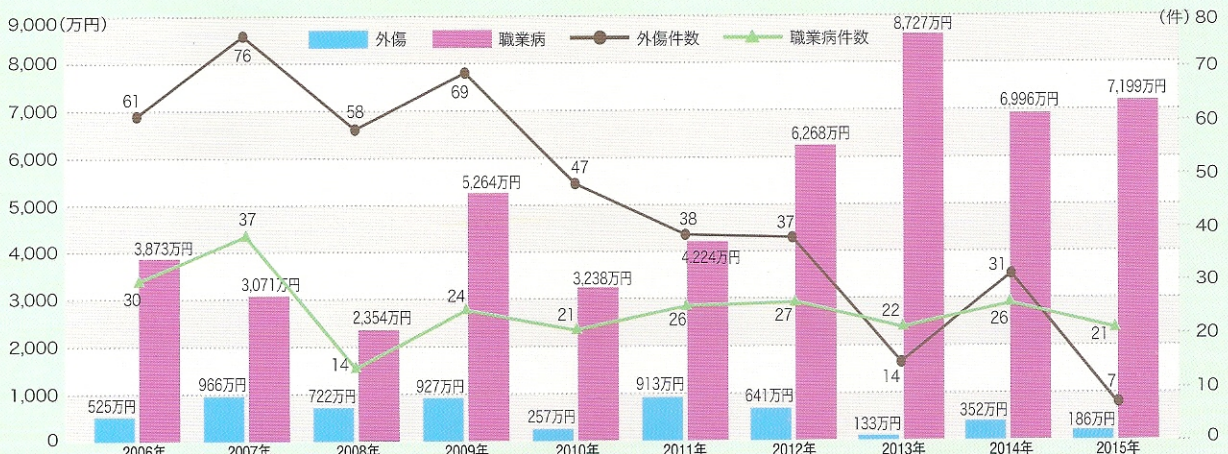
神建連の労災認定運動と財政効果

2015年度の労災切り替えとなった医療費に関する請求件数および金額は、外傷7人1,868,150円、職業病21人71,994,160円、合計28人総額73,862,310円となりました。外傷は前年より1,661,530円減額、職業病は2,026,550円増額となっています。件数は減少し

ていますが、特に職業病の治療費は高額であることから費用額は増加しています。

今後もアスベストが原因と思われる患者の増加が見込まれる中、理解や協力が得られる医師や医療機関を拡げていくことが大きな課題となっています。

国保労災切り替え財政効果〈費用と件数〉2006年～2015年度



3. 職業病対策

胸部レントゲンフィルム再読影

健康診断での胸部レントゲンフィルムを、職業性呼吸器疾患の掘り起しの一環として、しばぞの診療所の海老原医師、川崎協同病院の安西医師による再読影を実施しています。2002年度より組合労対部で積極的に取り組み、2004年度からは健診契約医療機関にレントゲンフィルムの貸し出しを依頼しています。

1. 再読影実施状況 (2015年4月～2016年3月読影分) ※年度×集計で算出しています。

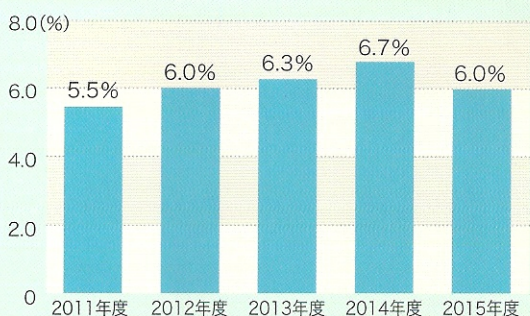
総読影回数	21回
総読影枚数	21,922枚
フィルム貸出し医療機関数	88機関

海老原医師：来館による読影 12回
読影数 11,509枚
(自院で読影した石工連健診分含む)

安西医師：来館による読影 9回
読影数 10,413枚
(自院で読影した川崎医療生協分含む)

2. 再読影結果

1) 胸膜肥厚斑の出現率



胸膜肥厚斑とは肺を包んでいる胸膜に生じた石綿による瘢痕です。それ自体は病気ではありませんが、石綿暴露した証拠です。

2) じん肺の所見率



じん肺とは粉じんが、肺の中に貯まり呼吸器の障害を起こした状態をいいます。

3. 要受診者の状況

1) 要受診者数の推移



受診の指示があり、専門医を紹介しても受診につながらないケースが多くあります。

2) 要受診者の所見内訳

陰影	64人
じん肺	44人
石綿肺	30人
びまん性胸膜肥厚	9人
その他	18人

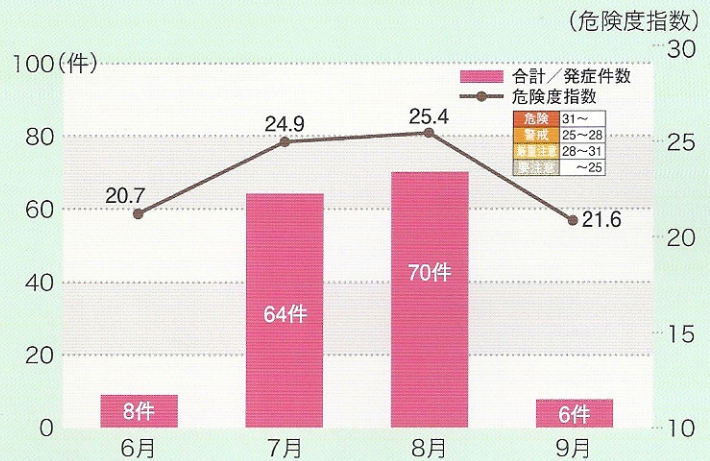
要受診者で最も多いのは、陰影（肺に炎症や腫瘍による影を認める）による精査指示です。次いでじん肺による受診指示が多数を占めています。

3. 職業病対策

熱中症発症状況

月別発症状況・危険度

熱中症の発症件数は148件（昨年166件）でした。そのうち入院は1件でした。医療費の総額は1,861,940円（昨年3,170,710円）でした。昨年より減少したのは、6月中旬から7月初旬、8月中旬以降に危険度の値が平均値を大きく下回る日が多かったためと考えられます。気温と湿度から算出される危険度が警戒域の25以上になり、まだ体が暑さに慣れていない7月は特に注意が必要です。



4. 健康づくり事業

健康指導員研修会

2015年度の健康指導員研修会では、栄養コースを2回、季節に合わせたメニューで調理実習を行いました。体操コースでは、近年女性に人気のヨガと女性特有のがんの話を組み合わせました。

ヘルシー栄養コース

日程	7月2日(木) 10:00～15:00 / 10月6日(火) 10:00～15:00
場所	神奈川地区センター
参加人数	11人、12人
内容	管理栄養士の指導のもと講義と調理実習を行います。



体操コース

日程	7月15日(水) 10:00～13:00
場所	建設プラザかながわ6階
参加人数	11人
内容	インストラクター指導によるヨガと女性特有がんの話&DVD上映



新規養成講座・体操コース

日程	9月15日(水) 10:00～15:00
場所	建設プラザかながわ2階会議室
参加人数	4人
内容	AM: 健康講習会の開催方法や測定方法についての説明。 PM: 体力診断&身体のメンテナンス方法について体験。



救急講習会

日程	2月14日(日) 12:00～16:00
場所	建設プラザかながわ6階
参加人数	4人
内容	日本赤十字社による救急講習会(人工呼吸、心臓マッサージ、AED)。救急講習会修了者には受講証を発行。



10/2(日) 12~16 AED.
建707

測定コース 握力 測定 料理 親子体操 ヘルシイ深層教室

4. 健康づくり事業

開催状況

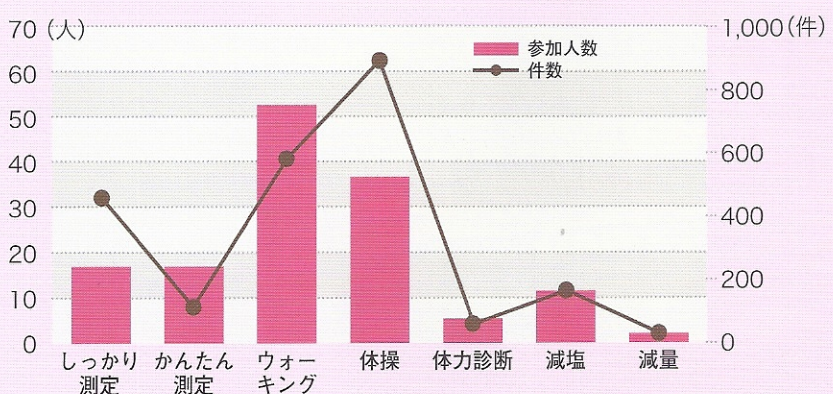
1. 健康講習会年開催状況の推移



健康講習会は2013年度に一旦減少しましたが、その後体操コース、ウォーキングコースを中心に参加件数、人数ともに伸びてきています。今年度は開催件数162件、参加人数が2,058人となりました。



2. 健康講習会コース別開催状況



コース別開催状況を見ると、体操コースは主婦の会で定期的にヨガやダンスが行われ、開催件数が最も多くなっています。参加者数ではウォーキングが最も多くなりました。かんたん測定を組合の運動会や保険証交換会などの行事の際に行い、参加者の人数が増えました。しっかり測定を毎月の会議の際に継続的に行っている組合もあります。

組合・支部での取り組み

相模原総合建設組合 親子参加の料理教室
夏休みにあわせて親子で参加の料理教室を開催しました。自宅ではなかなか作ることのない「包子(パオズ)」や豚肉を紅茶で煮た珍しい「紅茶豚」を教わり、子供から大人までみんなが楽しめる企画となりました。



横浜建設労働組合旭瀬谷支部 フラダンス教室
ほぼ初心者でしたが、先生の明るく分かりやすい指導でとても楽しみました。またやりたいという皆さんの希望で、月に1回の定期開催が決定しました。



神奈川土建川崎支部(主婦の会) 親子体操
ママ&キッズ体操を初開催。国保家族加入者のこども0~5歳くらいまでに絞って、呼びかけチラシを郵送しました。チラシをみて来てくれた方やママ友を誘って来てくれた方もいて、結果的に大盛況となりました。



2015 年度版

健康のすゝめ

保健調査活動報告